

History

キラリを再発見

線刻壁画が刻まれた横穴

深見東横穴群は、宮内の深見ケ谷の中ほどに位置し、前回紹介した深見西横穴群から東に150ほど離れた標高50ほどの丘陵の南向き斜面に2基の横穴が立地しています。

発見された時期は不明ですが、昭和48年1月に作成された「静岡県埋蔵文化財包蔵地調査カード」では、海戸ケ谷横穴群という名前で記されており、かなり昔からその存在が判明していたようです。

第1号墳、第2号墳ともに、平面形は胴張方形で、断面形はドーム状となっています。発掘調査がされていないため、出土遺物は不明ですが、昭和40年代に地元の高校生が第2号墳から剥落した壁面の破片に壁画が刻まれているのを発見しました。その破片は二つに割れており、一方に首の長い鳥、もう一方に格子状の線刻が施されています。頭の上にとさかのような線刻が見られることから、ニワトリの絵が描かれたものかもしれません。

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129



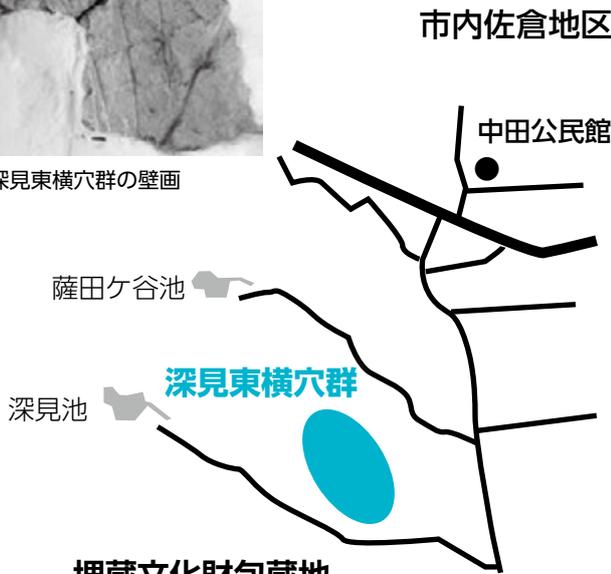
▲深見東横穴群第1号墳の現状



▲深見東横穴群第2号墳の現状



▲深見東横穴群の壁画



埋蔵文化財包蔵地
深見東横穴群

Atomic

暮らしと原子力

発電所敷地内外での断層は
10万年前から活動なし

また、これらの地層のずれは、H断層系と同様に、地層が堆積して間もないまだ固まっていない時期に形成され、地層が固まってからは活動していないことが推察される状態だと確認しました。H断層系は、地震を起こしたり地震に伴ってずれを起こしたりするものではないと考えられます。



今回の地質調査により、H断層系と同様の地層のずれが敷地北側にかけてほぼ等間隔に分布していることを確認しました。

活断層ではないと評価しており、この評価については、国の安全審査などでも確認されています。

中部電力は、浜岡原子力発電所の地質に関するデータ拡充を目的として、発電所の敷地内外における地質調査を実施し、調査が終了したことからその結果を6月18日に公表しました。

中部電力では、これまでの地質において、敷地内にH断層系と呼ばれる地層のずれがあることを確認していましたが、調査の結果、この地層のずれは約10万年前から活動がないことを確認しているため